

おかげさん

91号

真宗大谷派
高徳寺通信

2020年夏号



(1)

釋了吾 より皆様へ

高徳寺住職の長男の新井了吾です。父より「おなげさん」への寄稿の依頼がありましたので、私自身の話を書かせていただこうと思ひます。私は高校を卒業してのち、東京の大学に通わせてもらいました。大学で専攻したのは「西洋史」で、主に中世ヨーロッパの歴史を学んでいました。現在起つてゐる諸問題の根底には、長年の歴史の積み重ねの部分も多くあり、とても有意義な学びをさせていただいたと思つています。その後、本当に不思議な縁で、九州の福岡県筑後市というところにあります、「九州大各短期大学」という短大に通うことになりました。その短大には、仏教学科という学科があり、定員はなんと10名とう小さなで、私の学年は7名でした。私を除いてほとんどの人は九州出身で、筑後弁や八女弁、久留米弁などの方言を喋ります。

例えはAさん：「今日テスト2時からがな」Bさん：「勉強せやん」Aさん：「まだしとうんかたと？」Bさん：「いっちゃんしどうん」Aさん：「なんばしよこ」みたいに…最初は何を言つているのかよく分からなかつたです（笑）人間関係土地勘ゼロからのスタートは少し不安でしたが、すぐ仲良くなりました。仏教学科の同期は下が18歳、上は53歳!!と年齢層にばらつきがあり、考え方も世代も違つそれらの友人たちと日夜、淨土真宗の教えについて学ぶことはとても有り難いことでした。また、短大の自治会では会計に任せられ、予算の組み立てから執行まで行いました。それはそれは大変でした。世の中の会計さんは頭が下がります。正直、東京で通っていた大学よりも充実した学校生活でした。ところで皆さんは筑後という場所をご存じでしょうか？筑後というところは、博多から南に50km程のところにあり、とにかく田舎です。（失礼）自分の住んでいたところから「西牟田」という最寄駅まで徒歩20分、電車は日中は一時間に一本、無人駅です。皆さん福岡県に住んでいると聞くと、博多や天神・中洲といった歓楽街を想像されるかう電車で一時間半かかります。東京の実家からで言うと、距離的には小田原に遊びに行く感じで

しょうか：（笑）筑後の居心地が良かつたせいが、や々
 そういう町へは行く氣になれませんでした。さうに言ひ
 と、道に人が歩いていないと、いつ光景は今まであまり
 見たことがありませんでした。車社会なんですね。自
 分はペーパードライバーでした。今は毎日車を運
 転しています。振り返ってみると、筑後に一人で暮ら
 してみて、教えられたことが沢山ありました。短大卒
 業後に東京に戻ろうかどうしようか悩んでいた時
 に、短大で大変お世話をうけた先生から「もしよけ
 れば私のお寺で手伝つてもうえないか。」と、お声をか
 けていただき、福岡県八女市・明永寺さんという
 お寺に就職しました。大変大きなお寺で、立派な
 中庭があり、毎月大勢の方が婦人会や同朋会な
 どでお寺に参ります。今は、新型コロナウイルス
 の影響で人が集まるのを止めていますが、日々、お
 命式や年回りの法事などを手伝いさせていた
 だいています。自分の全く知らないお寺で働くと、当
 たり前ですが、誰も知っている方がいません。門徒
 さんも近くのお寺さんも、全員が初対面で、緊張す
 ることもあります。初対面の方の葬儀をお勧め
 する際はとても氣を使います。おそらく東京
 に帰つて、どう知らなないこと、氣づけないこと、沢山
 あると思うので、とりあえず三年間ですが、福岡
 の地で、頑張ってみようと思つております。八女市
 は“八女茶”が有名ですが、様々な果物や野菜

など豊富に取れる豊かな土地です。そのうちハ
 女市の紹介などもしたことがあります。この土地
 で“仏法領”の中でも日々生活をさせていただ
 いて、東京に戻った際は、皆様と一緒に仏法を
 聞かせていただきたいこと田代あります。八女の寺
 での生活は、まだ始まったばかりです。日常
 生活において、いろいろと経験したり、感じたり
 などをして今後もお伝え出来れば、と思つて
 おります。新型コロナウイルスのために過酷
 な日々が続いています。感到るのは今までの
 「当たり前」の像です。「無常」と教えられる
 この世の中ですが、本当にそれが自分の問
 題になつているのか… “問い”を抱えながら
 歩んで行きたいと田代あります。今後とも宜しく
 お願ひいたします。合掌 繹了吾 拝
 （以上、住職代筆）



◆福岡県八女市「明永寺」
 様の門前に立つ
 新井了吾(名:繹了吾)
 1995年生れ・24歳

コロナ禍において 法事等について

- ◆『秋彼岸会』
 - お墓のお参りは、いつも通りしていただけます。
- ・従来通り、維持費のご納入は玄関にて、お線香もお分けしております。
- ・申し訳ありませんが、新井白石記念ホールを開放しての、『お休み会』は

新型コロナウイルス感染のリスク（ご参詣の方もスタッフの方も）を考慮しまして、取り止めとさせていただきます。ご了承ください。

◆『年回の法事』

- ・ご希望の日時をご検討の上（オ一・オニ希望）お寺にご連絡ください。出来る限りご要望にお応えいたします。
- 本堂では、距離を取り、換気をしながら、お勤めいたします。

◆『墓前のお勤め』

- ・祥月命日（故人が亡くなつた月日と同じ月日）や、月命日（故人が亡くなつた日と同じ日）のお参りの際（前もってご連絡が必要）にお墓の前でお勤めいたします。

◆『寺子屋の時間』

- ・本堂にて距離を取り、換気をしながら、輪読や感話等を味わう時間です。どなたでもどの回からもご参加出来ます。

今年は、武田定光氏の『救濟詩抄』という本を味わっております。

◆『寺うた』

- ・大変残念ですが、現在、中止とさせていただいているります。今後の状況次第では再会もあります。高徳寺のホームページにお知らせしておりますので確認していただけましたら幸いです。

◆『おみがきの会』

- ・仏具を磨いていただく奉仕の集いです。新型コロナ対策を取り入れて、開催させていただいております。

次回は、9月12日(日)の14時からです。

皆様のご参加を、よりお待ちしております。

今年の報恩講

ですが...

2020年の報恩講は

10月24日(土)を予定

しておりますが、新型コロナウイルス
の今後の状況によって法要の形が
決まって参ります。只今、検討して
おりますので、次号にてご案内させて
頂きたいと考えております。

しばらくお待ちください。

おみがき奉仕御礼

2020.6.28

新井 和子さん
海東 雅子さん
菅原 千恵子さん
寛谷 恵美子さん
柳澤 佐智子さん

新井 由真さん
清水 和美さん
塚田 和子さん
水越 拓路さん

伊藤 隆介さん
菅原 悟さん
塚田 太郎さん
水越 和子さん

(あいだえお順)

コロナ禍にも拘らず、仏具を磨きに来て頂きました。誠に有り難く存じます。本堂にて、マスクを着用し、距離を取り、換気をしながらいたしました。次回(9月14日(日)14時~)も開催を予定しておりますが、状況次第では、中止となる場合もあります。寺のHP等でお知らせいたします。

KANPA 御礼

神野くららさん
金山 徳喜さん
奥村 博さん
朝 富士子さん
大槻 宏子さん
鈴木 新一さん

いつも応援頂きて感謝申し上げます!

印刷のご寄付御礼

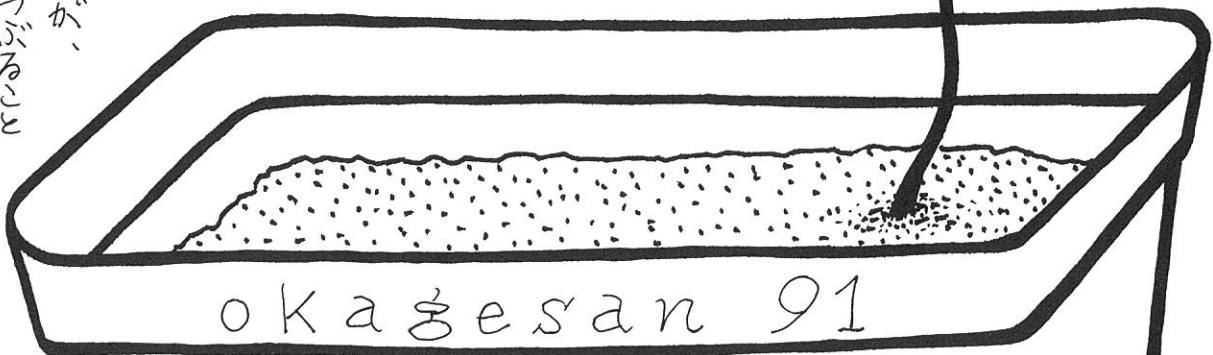
『おかげさん90号』まで、別冊も含め、印刷のご寄付を頂きました門徒総代の藤井 清三様に心より感謝申し上げます。誠に有ること難いのおかげさんであります。今後も寺報発行に精進して参ります。合掌

あとがき

今回、表紙の絵に、江戸時代の妖怪と言われる“アマビエ”を描いてみた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で全国的にアマビエブームが起っている。この妖怪は江戸時代、熊本の海に出現したと伝承されている。人魚のよう外見で嘴があるのが特徴だ。その姿を絵に描いて流布すると、疫病が収まるという伝説から、新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた頃から人気が出だらしい。

私が認識している今までのウイルス性のものとは異なり、新型コロナウイルスは感染してから発症する間に他の人へ移す」とや・無症状の感染者が多くいるとみられるため、非常に厄介である。なので心から「早く終息して欲しい」と思う。しかし、私の思いとは裏腹に収束すらせず、第2波が来るとう声に怯え（自分も含めて）疑心暗鬼になってしま毎日を送っている。「ウイズ・コロナ」という新しい生活スタイルを取り入れながら、出口の見えないトンネルを進んでいる…。不安や苦悩の中で生きていくなかったこのコロナ禍であるが、自分だけは大丈夫：という根拠のない思いを握りしぐれど、怯えて田をつぶることもせず、「今」というところに立って歩んで行きたい。

その
一言が
人を温める
一言が全
きづける



発行日 2020.7.13 号 164-0002
発行 真宗大谷派 高徳寺 東京都中野区上高田1-2-9
編集 住職 新井義雄(法名:釋義祐) 電話 03-3368-6947
FAX 03-3362-8019